

504
42

世界戦後の独逸に於ける
基督教社會主義
加治時次郎著



始



504-142

加治時次郎講述
岡野辰之介筆記

世界戦後の
獨塊に於ける

基督教社會主義

東京 生活社發行

大正
12. 1. 16
内交

序

予は其の職業が醫師であるから、従つて之れまでは科學一點張りであり、物質萬能論者であつた。此の立場からして階級闘争も認め、労働者の専制時代も豫想して居つた。けれども單に物質のみが總べてあるとすれば、假りに労働者の時代が來たとしても、分配の争は絶えまいと思はれる。又労働の難易、労働時間の長短に就いても、斷へず紛争が行はれることは否定出來ない。物質主義は社會變革に到達する道程には相違ないが、其成功した曉に必ず血で血を流ふ如き慘事を繰り返すは物質主義ばかりでは明かで、何時になつても眞の平和が招來せられやうとは思はれぬ。そこでどうしても互に尊敬し合ふとか、譲り合ふとかいふ美德を養成して置かなければ、キツト齟齬の悔を貽すものである。

變革といふことも、制度を變革せんとすればこそ流血の慘を見るかも知れないのであるが、人心を變革すれば制度の如きは抑も末の問題である。現制度の下に於いても黄金世界は來る。人を鬼にするのも蛇にするのも、相手の心次第に依るもので、資本家が横暴だといつても、之れをして眞の佛心を起させれば恬淡寡慾となり、即身成佛を遂げることは明かである。こうなれば力を以つて彼等を倒さんとするの、勞多くして得る所鮮きを思ふのである。彼等も力を以つて臨まれるれば必ず力を以つて争ふことは、今日の勞働爭議に見るも明かではないか。

昔は衆生即ち民衆は、貪慾飽くなきの徒は少なかつた。全然無かつたといふことは出來ないが、今日のやうに利慾のみに没頭することは無かつた。其の茲に到つたのは機械の發明が、民衆の生活を脅かしたことも大なる原因ではある

が、また精神教育の弛緩が與つて力あることはいふまでも無い。徒らに物質を偏重し黄金萬能を鼓吹した結果、今日の惡果を生んだと見ることが出来る。即ち現代は餘りに精神教育を閑却し、倫理道德を塵芥視した罪である。勿論政府當局にも其の責はある。先覺識者にも其の責はある。倘し其の非を覺らば速かに之れを改めて、正しきに復らなければならぬ。

予はこゝにいふ見地から、精神主義の忽諾に附すべからざるを覺り、先年來基督社會主義の書籍を二三通讀した。けれども基督教は日本の民衆とは少しく縁遠い心地がする。夫れよりも古くから傳來して、日本人の腦裡に深く強く印象せられてある佛教を以つて之れを導くの捷徑なのを覺つた。そして多くの佛教諸派の中でも、日蓮宗が尤も民衆的であり、勞働階級若しくは四級民に相應はしきを思ひ、其の研究を初めたのである。偕、何事でも外部から見た時と内部

から見た時とは其の趣も大に相違するものである。今日の日蓮宗にも、日蓮宗の僧侶にも、面白からぬ點、氣に食はぬ點は多々あるが、法華經の説く所、宗祖の遺し給へる言葉には、犇々と思ひ當ることが多く、初め研究する積りで這入つたものが、遂には堅い強い信仰と化したのである。そして此の信仰を以つて居ると、日常治療に従ふ間にも、或は既に事切れた死者が蘇り、不治と斷念したものゝが恢復する等、單に奇蹟として之れを眺めることが出来ない場合に幾度か遭遇した。どうしても佛の加護としか思はれ無いのである。

併し予はどうしても精神ばかりで人間が生きて居られるなど、思ふほど、非科學的には成り得ない。身體を健康ならしめるには滋養物も攝取しなければならぬ。今日の勞働階級の生活、無産有識階級の生活の不安を思ふ時、どうしても彼等の生活を安定ならしめなければならぬ。といふて物質主義ばかりで

は前にいつたやうな、矛盾が生ずるから、精神と物質との二元論で無くては、未來永劫、地上に黄金世界若しくは極樂を建設することが出来ないと思ふのである。であるから西洋に基督社會主義があるやうに、日本には日本的に純化せられた佛教があるから、之れを基本とした社會主義を創始する必要があると思ふのである。そして今佛教的社會主義の組立てに心を碎いて居る。

處が日本の社會若しくは若い青年は、社會主義といへば物質一點張りのものと思ひ込んで居る。佛教的社會主義といふものが生れたならば、定めし驚異の眼を見張るに相違ない。けれども西洋にも佛教的社會主義と同一な、基督教社會主義といふ者が久しい以前から存在することを知らしめ、決して精神的物質主義が矛盾や障着や扞格のあるもので無いことを知らしめて置きたい爲めに敢へて本書を公にするものである。

六
因に本書は予が通讀したものの中から、アレコレと拾ひ讀みながら筆記させたもので、脱稿した時に一寸眼を通したが、原文と對照して居る暇が無かつたから、或は其の眞諦を傳へ得なかつた點があるかも知れぬ。けれども前にいつたやうに本書の主眼とする所は、基督教社會主義の存在を知らしめれば足りるので、其の誤りの如きは予の意とする所ではない。されば讀者は強ち章句の末を咎め給ふな。

大正十一年十二月十三日

加治時次郎識す

目次

一、基督教社會黨の國外政策……………	一
二、戦争中の社會民主黨……………	一
附其の過失問題……………	七
三、軍事的腐敗の時代……………	七
及基督教社會黨のプログラム……………	一四
四、國民的共和國……………	一六
五、國民派としての基督教社會黨……………	三三
六、猶太人問題……………	二六
七、經濟政策……………	三五

八、工業労働者及確定使用人間題……………四二

九、農業政策……………五一

十、文化政策……………六一

十二、補遺……………七六

 スタイエルクに於ける基督社會黨のプログラム……………七七

 (A) 憲法……………七六

 (B) 經濟政策と社會政策……………八〇

 (C) 暴利強慾に對する制禦……………八一

 (D) 文化政策……………八三

十四、獨逸領に於ける基督社會黨の選舉プログラム……………八五

十五、低地埃國の農業者同盟プログラム……………九二

A 農業改良……………九三

B 製造工業……………九五

C 學校法……………九六

D 政治的施設……………九七

E 社會民主黨……………九七

F 國民問題……………九八

G 宗教問題……………九九

H 社會問題……………一〇〇

世界戦後の獨
塊に於ける
基督教社會主義

加治時次郎講述

岡野辰之介筆記

一、基督教社會黨の國外政策

這次の世界戦争は、吾人に非常な打撃と驚愕とを與へた。そして夫れが深甚であつただけ、吾々は個人的にも國民的にも、永續的平和を憧憬することが深甚である。獨逸の基督教社會黨は、國民保護の先驅を以つて任じ、常に人類の正義と平等との建設に盡力した。彼の大戦争に當つて、獨逸社會黨は「基督教は倒潰した」といつたが、果して基督教は倒潰したであらうか。成る程基督教は倒潰した

かのやうに見えたが、併しながら精神的物質主義と、基督教的根本主義とは倒れはしない。基督教には限らず、吾人の背後にある何んな事でも、之れを仔細に研究すれば、一意権力政治と物質文明とのみを期待した所のもは何れも難船し、そして最も大なる血液の負債を受けた實情が明かに成る。基督社會黨は、社會民主黨が権力政治を征服する爲めに、物質主義に服従して居る間は、何時までも抗論するといつてゐる。其のいふ所に依れば、物質主義者は権力政治に導く物質主義の歸結を次の如く記載して居る。「善は快樂であり、酪酩であり、愛であり、嫉妬である。物質主義は此等を持ち得ずして惱める人の其の惱みに對する除害法に過ぎない」と。又曰く「善は財産である。如何となれば道樂と交換が出来るからである」と。又曰く「善は權力である。如何となれば吾人の高慢を満足せしむるからである」と。又曰く「善は偽であり、己の嫉であり、變容であり、術策であり、

二

陷阱である、如何となれば自己の爲めに利益を持ち來すからである。即ち善は自己を利得する間の眞實であり、又謀反心である。そして若し信實を盡くした以上に高い價値を得るならば一層之れを確かめるものである。善が快樂となり遂げる迄は詐偽であり掠奪であり、そして殺人である」と。斯の如き粗暴な見地から彼等の世界觀が生れ、實際の應用も夫れに従つて起つた。そして彼等の國外政策といふものが、戰爭前にも戰爭中にも、此の物質主義的方針に従つて行動を爲したのである。

戰爭中政治的黨派は國外的には丸で無力であつた。そして實際代議委員に依つて緩和することの出來ぬ絶對主義で支配された。如何となれば戰爭中彼等代議委員は、擧手の機械に過ぎなかつたのである。國外政策は制度を改善し、進歩を助ける爲めであつたが、一つも其の手段を試みさせられず、全く或る小區域のみの

三

秘密教となつてしまつた。元來外交的任務には人事的にも事物的にも根本的に異つた見解を要求する。民主々義は古い制度を打破すべく盡くした。免許狀附きの議會調査會が今は行はれるやうに成り、そして秘密提議の廢止に依つて、議席に於ける會議の國外的政策の重荷を除く可き自由の通路を作つた。そして之れに依つて國民からの提出案は、共定權を確めたばかりで無く、又戰爭及平和上の決定權を確むる事に成つた。故に基督社會黨は國民權の新構成に、基督主義の原則を應用せしむ可き機會を得て居る。

若しもあらゆる國民が、皆自覺して、其の國民の火たる人の子の固有性を障害せず、彼等の特別の諸問題にも無害に共同有機體となり、何人も罰せられず此の共同社會を傷けることが出來ず、過去にも未來にも大害がなくなつたなら、吾人は偏頗的な權力政治に打勝つ事が出來、そして國民大同盟を組織し、各國家

の下に武器權力の應用を廢せしめ、總べての爭議を平等にす可く、最高の社會組織が成立しなければならぬ。世界は再び血を濺ぐ戰場の慘禍に遭つてはならぬ。故に國民同盟を以つて、各國家の責務として戰爭の始まらぬ前に、國際的爭議の問題を仲裁々判に附し、其の判決を期待させる事が必要となる。國民同盟は又國際的提案を受入れて、保護注意をしなければならぬ。故に其の方法としては國家が同盟して國家を罰する事の出來ぬやうにせねばならぬ。國際的權力行使問題は、國防撤廢の最も狭き聯盟に屬するものである。

各國家内の秩序維持の爲めには、國民から選出せられた代表者を置くのである。そして危険ならざる新軍備的の諸機關は、將來國民同盟の避難所とならねばならぬ。根本的國防撤廢は又財政と一般經濟との諸原因を説明するものである。此の問題の國際的整理をしないで、將來の保護を顧慮した處で何んにも成らぬ。さ

れば國民同盟は最も狭い聯盟中に、國防撤廢を決するがよい。ワルター・シユキン
グは其著書中に左の語を以つて決定を與へた。

「大要は正道に歸するのであつて、權力の代りに正道を以つてし、人類の理想に
到達したい。今やこの理想は歐洲に起つて居る。吾人は此れに對し國民の神聖な
る團結と新鮮なる精神と、純白なる心を以つてすれば、世界の平和は好果を得
るに相違ない。即ち神の唱へられたる内の勝利である」と。基督社會黨は倫理と
政治の頽廢に注意すると同時に、國外的政策に於ける一般不正に對しては、新な
る法律秩序及び平和の順路に背かない、眞面目な道に出づる事を勧める責任を持
つて居る。此の目的を獎勵するには富國主義では駄目であつて、人類が經濟生活
の中心でなければならぬ。經濟政策は亦國外政策と離れることは出来ない。故
に國家が平和を欲する時は、彼等は經濟的均等の爲めに海陸共に開放しなければ

ならぬ。

經濟社會に於ける階級的國際利己主義は、常に戰爭を伴ふ危險物であつた。若
しも各國家が、互に無遠慮に、自己の我慾を以つて經濟的再興の爲めに盡くし、
弱國の首を締め、國民の保護も、國民同盟も行はぬ時は、新なる經濟戰爭と帝國
主義及國際利己主義とを作り、復た不都合なる模範國家を再燃することは明かだ
ある。

二、戰爭中の社會民主黨

附其の過失問題

社會民主主義の新聞雜誌は、基督社會黨に戰爭中の過失問題の連帶責任を負は
せんと欲し、似而非宗教徒など、誇張して其讀者に告げ、唯り自黨のみが正しき

立場にあることを誇つた。そして彼等は淺慮にも輕々しく騒いだのであつた。獨逸は勿論埃太利でも、戦争前社會民主黨の多數が、戦争の避くべからざるを主張した。如何にといふに露國の政策は確定的に戦時の必要より課税を斷行したからで、又英國はザールと共に世界危機に於ける主犯者であつた。

一九一四年八月五日「發行の勞動新聞」に左の記事が載せてある。

「吾人は八月四日を忘れることは出来ぬ。……鐵のサイコロを地上に落した時のやうに……そして吾人は勝利が神聖なる獨逸國民の上に落ちんを熱望した。今日獨逸の議會と、國民の代表が捧げた像が、全獨逸的人道の意識に縷り附けられ、獨逸魂の最も強く、最も誇りある日として、歴史中に現はされる事を希望す。そして全歐洲をして、獨逸が實驗上戦争消滅の爲めに軍備を整へ、戦争中は國家的獨立の爲めに、國民の榮譽心が最後の一滴の血を止むる迄、獨逸と一致したとい

ふ意識を此日に持たしめた。——そして獨逸國民は國家的と國民的とに、其の存在を維持する爲めに一致した。」云々、

併し他方面には、倫理思想を缺く處の、悲惨な投機團體及び暴利團體を作つた。此等の團體には力強い國民が一致した。斯る有様では世界の歴史に一汚點を印するものといはれても、何の辭を以つて答ふるであらうか。事實は誇るところか、恐怖すべきことを説明して居るではないか。實に恥かしき次第といはなければならぬ。露國と佛國とを渦中に捲込んだ這次の大戦争を爲すに當つては、全獨逸國民は除外なく、黨派の差別なく、國民の生死は擧げて獨逸の存在の爲めに捧げたのであつた。戦争は久しく歐洲の天地を圍繞して居つた。即ち露國でも英國でも佛國でも、既に前々年から否其の前々年から軍備をして居たのである。中でも獨逸國民に取つては此戦争は自ら投石して自ら其石に當つたやうなもので、其結

果全く無勢力となり、悲惨と困難とに泣かなければならなかつた。露國は其の渦中に投じなくてもどうか仕やうがあつたやうに思はれるのに、態々此の戦争に飛び込んだのであつた。

佛國は此の間に於いて平和の假面を付け、戦闘準備をして居りながら、唯々調停するが如く見せかけ、獨逸と露國との戦争に關するものとして獨逸に質問した一日前迄は、之れを避けるかのやうに答へたのである。然るに戦争が繼續せらるゝのを見て、アルチールとチユニスを超へて、攻撃状態になつたのであつた。同盟國の第三者たる英國には少くとも判断がつかなかつた。グレーが其の日の國會で演説したのを讀んだものは、何人でも戦争に關係しやうとは思はれなかつた。そして戦争参加の理由を、獨逸が白耳義の中立を傷けたからだとしたのは、唯々口實を作つたに過ぎないといふ事は明白である。モシ白耳義の中立を破つたもの

が獨逸側でなく佛國側であつたら、夫れでも英國は劍を抜いたであらうか。ツマリ此の理由は一笑にも値しないものである。併しグレーの口實的演説を解剖する時は、半世紀前から即ちエドワード七世の始めから、用意のあつた關係が明かになる。第一武器が物語つて居る。敵方の口實は復讐、勢力擴張、世界貿易及び世界權力の爲めといひ、獨逸側では隣邦を嫉まふとは思はぬが、單に勢力の均等と國民生活の爲めのみといつて居る。

之れに似た事をリントで發行した『眞實』といふ民主黨の新聞の一九一四年八月五日號にも書いて居る。

『既に前方より露國には此の氣分が存在して居つて終に戦争を成就した。平素ザハは次の如き思想を持つて居た。即ち世界戦争の犯罪は彼の双肩に荷ふて居る。吾人は露國獨りが確かに現在の戦争の犯罪者たることを明にした。七月二十五日

の午後、埃國がセルビアに要求をしたといふ評判が立つた時に、露、が戦争参加に傾いた事は實際に根據があるのである。パジツクの内閣は平和的な埃國の要求に相當する覺書を書いて、之れを露國に送りて承認を求めた。然るにペーテルスブルグでは平和を好まないで、却つて戦争を欲したのである。其の口實として「埃國と獨逸とは馴れ合ひであるから」といふて之れを退けたのである。そこでセルビアは別に覺書を書いたけれども、埃國を満足させることが出来ないうで戦争に成つた。其の時の覺書がペテルスブルグで「世界の燈」といはれたものである。最も自然に背くのは、ザーと佛國の同盟であつたといふのである。即ち大革命の遺傳性を受けてる佛國と、血を以つて壓制する露國との同盟であつたから、そつういはれても致方はなかつた。又佛國の資本主義は富源地であるアルザス奪還を夢み、浮浪的な國民主義で復仇思想を煽動したのである。故に世界戦争はザー主義で持

ち揚がり、全歐はニコラス二世の手で火中に投せられたのである。「若しも戦争の初めに觀察した中心勢力なるものが過つて居つて、彼等政黨が夫れで平和と殖民的講和を欲したなら、民主黨の機關紙に報じたことは全く俄か豊であるといふてよい。彼等の宣傳者であるパツリアの社會主義的獨裁君主といはれて良い戦争熱狂者は一九一八年十一月二十八日、戦争の破裂を次のやうに述べた。「獨逸の社會黨は戦争破裂後はあらゆる國際的理想の勝利に酔つて居るが、何れは虚偽に轉化されるに相違ない」と。社會黨はこつうした誤つた觀察眼を以つて、戦争の諸原因を見て居たから、遠くを見る事が出来なかつたのである。そして彼等も亦戦争の犠牲となつたのであるが、其の國外に對して被つて居たシヨールは取り去る事が出来なかつた。併しながら彼等が平和の理解を叫んだ時は、彼等ばかりでは無く基督社會主義の秀れた宣傳者ドクトル、マタヤ・クムメルシャーク等も、同様

なことをいつて平和を唱導して居たのである。

二四

三、軍事的腐敗の時代

及基督社會黨のプログラム

基督社會黨は以前の軍隊に掛る負擔と、其の軍隊に固有な事實とが殖民の上にも相關係して、軍事的及一般的破壊の原因を構成するやうな、軍隊の腐敗事項を讀まざるの日とは無かつたといつて居る。こゝにいふ事は唯り獨逸に限らない。何方の國でも夫れがあるので、識者をして軍國主義の末路を思はしめる。由來慎重であらねばならぬ軍隊に、輕卒と不正さが横溢し、法律を無視し、人類生活を滅却する事を何んとも思ふて居らぬのである。されば從來人類生活てふ事を少しも顧慮しなかつた人は、誰れでも今に於いて其の應報が來た。然かも此殺人的行

爲は、其の跡始末の重荷が、前の軍事的興味に百倍するの苦痛を受けて居る。こんな前例に對しては特殊獨立の裁判を以つてするのであるが、個人自由の原則は悲惨な目に遇はされ、軍閥的に入り込んだ被告人とされ、個人の獨立は拘束されてしまふ。又彼等の要求は多くは軍閥的集團の榮譽を、不正に掌握せんとするにある。基督社會主義の意見は此の禍根を質すにある。米人の士官が彼等の眞實の義務を教の前に滿たしたか。彼等の正義と謙讓と義務を盡くした模範を、彼等の兵卒から神の如く尊ばれたものがあるか。獨逸内地では人の知らぬ犯罪的義務忘却者と一所に、尊教者も一ツ盡に投げ込まれるのである。何處でも一樣に、此等を取締るために、一時的俸給の停止、其の他個人の職業に影響を及ぼす方法を取り其費用は些少の金額で出來ない。又かゝる制度の爲には義務に忠實ならんとするも、犯罪者たらざるを得ぬ大官連は、畢竟物質的に困難の位置に置かれるから

であるといふことを考へなければならぬ。此の如き誘惑や自暴自棄が續行する間は、偏頗なる取扱に依つて義務的に人格の權利制限を行はんとするも不可能である。吾人は國家的暴風雨に際して働いた士官が、其の義務を眞實に果たして歸國し、尊敬の標的となつてゐることを知つてゐる。

四、國民的共和國

今日となつては最早君主專制國とか、共和國位では反響がない。共和國は權利義務から成立する國家様式の一つであることは勿論である。基督社會黨は共和國を承認して此の様式の範圍内で獨塊の再興に、最善の力を以つて共々盡くさんとする用意がある。一時的に開かれた國民集會は、新に選定した共和的國家様式としては、言ふ可き程の法律の作製は出來て居らぬ。民主的獨裁專制とも云ふべき

選舉の運動は、徒らに競争を猛烈ならしめ、市民を騒がせたゞけで、彼等の新たな國家法の發達を不可能ならしめた。併し基督社會黨は物質の民衆改善を要求するのである。之れ明かに國家の安靜を招來する所以で、將來國家を確實に回復せしむるものである。之が爲めには專制的鬭争は大なる障礙であるといふことを示すものである。選舉戦が共和であるか專制であるかを決定する時は、新なる國民集會に於ける民衆の終局的思想の決定は、共和國に取つて最惠でなくてはならない。民主的專制は英國を雛形とするもので、之れに同情することに吝なるものではないが、併しながら歴史を逆轉させるの愚を學び度くない。そして既に基督社會黨は其のプログラムに於いて、名譽ある共和國にしなければならぬといふことを公にした。時の命令で自由民主的國家は終りに近いたといはれて居る。民主的國家では立法及行政の大部分は、全國民自由選舉に依つて、男及び女から選出

せられた提案者の手中にある。國會ばかりでは決定せられない程の根本的な大問題は、シュワイツに倣つて一般國民投票を行ふことを勸めて居る。シュワイツの一般國民投票といふのは、法令を議會で定めても、其の可否善惡を一般國民投票で決する仕組みで、モシ多くの國民が不可と認めたら改正するなり、撤廢するなりするのである。現にシュワイツ(瑞西)では之を行つてゐる。此の意見は過去の基督社會黨の政策に一致して居る。基督社會黨の宣傳者ドクトル・リユージェル氏は、眞の民主黨であつた。彼は獨逸の自由黨が特別選舉に嚙り附いて居た時代に、既に遠い未來の選舉權を望んで居たのである。

吾々は國家の様式が民主的であるからといつて満足してはならない。そして眞に民主的に目醒めなければならぬ。併し有らゆる市民が民主的知識を持ち、多數も個人も正しき民主的考へとなる迄には、尙ほ前途遠遠といはなければならぬ。

い。投票用紙を渡す手には、正しい民主的義務を満たしては居らぬ。ロテック氏はいつた。「自由の報告だけでは、人民の眞の自由が達せられたとは思はぬ。自由の働きと成就是、「自己の精神の向上と、徳行とに依つてのみ達し得られる。法律の神聖維持と方正な注意が無くては自由は考へられぬけれども、亦自由な意識が無ければ空虚である」と。今日迄は少數者が、公的事件で如何に多數を苦しめたであらう。選舉に於ける活動といふは、多くは多數の利益を打消したものである。國家にして其の市民に對し、社會的徳育を行はなければ、其の國家は繼續が出来ないことに成る。此所に成ると基督教的世界觀は、此の點に注意を拂ふから、民主的國家中に於いて餘計なものでは無い事を證明するばかりで無く、反つて民主主義の惡化と人民君主制若しくは、金權君主制に對する防波堤となるものである。非基督的私慾は、此の戰爭中に自身を豊にし、吾々をドン底に沈ましめた。

吾々は死んだ法律の文句や、民主々義の形式許りでは助けられぬとすれば、基督的共同理想として自愛心の傍ら他愛心をもつて、自己の諒解を他に及ぼし、新しい獨逸國が共力して、一般に安全とせらるゝ信仰を用ゆべきである。かくて民主々義の實行を基督主義の倫理教に見出すこととなる。實際民主々義は唯り自己の爲めに唱ふ可きものでは無く、一般の爲めに唱ふべきものである。かくて全民衆の安全と利益の爲めに、完全な活動をしてこそ、基督の宣給ひたる御意に叶ふものである。基督は「僅微なる事でも、汝が同胞の爲めに爲した事は、即ち汝の爲めに行ふたものとなる」と宣給ふたではないか。

非民主々義は總べて權力専制である。戦争中に獨露に出来たものは、社會主義の側から見れば、何んに依らず民主々義の恥辱と嘲笑とである。如何に軍閥を保護する少數が倒れても、専制君主制は破壊せられても選挙に依つて國民に公平無

私の立派なる意志を報告する機會を與へなかつたなら、大名諸侯の絶對主義よりも、モット不快極まる暴君制度である。社會主義者中の國民自由派民主派が、信仰を最もよく高めた時代には、選挙に當つても何等不快なる衝突を見たことがなかつた。然るに獨逸兩國に於ける社會主義團體が、彼の赤旗の下に黨の教育を整理せんとする際に當つて、既に其革命誕生日に於いて赤色の染め誤りをしたものだと思はしめた。何故かといふに民主黨が黨外に對する考と注意は、基督の教に従つて居らなかつたからである。民主とは吾人の隣人に同情を有し、其の同胞たる辭に背かぬ時をのみいふのである。いふまでも無く階級君主とは之れに反する非民主々義の事である。基督社會黨は其の世界觀に於いて、地上の有らゆる身分を保護し接近せしめ、虚偽の民主々義に反對し、あらゆる非民主的潮流と挑戦する事を意味して居る。故に社會民主黨が階級君主を奨励するは、健全なる民主

々義の發達に對して危險此上ない。過激主義は其の遣り方は恐怖を齎すが、徒らに熱狂的頭腦から出た偶發的のものでは無く、社會民主的團體及び赤色軍法の合理的作用で、無遠慮なる成就である。民主黨があらゆる敵に對する放言罵言は、其の亂暴なる文意が彼等の機關紙に掲げられたが、人心を毒すること甚だしく、到底之を讀むに耐えざらしめるものがある。

民主黨の危險は、維納の社會民主黨員がやつた維納中心主義に注目すれば分る。若し獨塊領に統一が必要であるならば、各地方に於ける種々なる關係の特性を看過してはならない。總べてを自己と同様に見て處置することは難事であり、何にもかも維納を以つて他地方を律せんとすることは一層難事である、維納革命の失敗は此處に存するのであるから、大に反省しなければなるまいと思ふ。若し自治の原則に虚偽を混へず、純正に民衆に依つて實行せんとするならば、各地方に大

いに運動の自由を與へなくてはならない。中心主義的民主々義の障害は、之れを佛國の事蹟に見る可きである。所謂中心主義は中央集權法で、新式壓迫法で、多數の不滿を買ふ少數者の強迫君主制である。若し有害なる中心主義を避け、各地方に遠大なる自治を望むならば、基督社會黨の真正なる民主法を採用しなければならぬ。

五、國民派としての基督社會黨

社會民主黨の先鋒若しくは宣傳者は、階級政治家で無く、國民政治家で無ければならぬ。階級政治家は必ず權力政治家となり、不正義の宣傳者となる。基督社會黨は總べての基督教徒を統合一致せしめたいと思ふ。此立場から偏頗な階級政治家でも追脱けることは出来ないが、公益に反する事柄を防禦し、そして平等に

満足せしめんことを願ふものである。ドクトル・リューゲル氏は、其の宣言書中に次の如く書いて居る。「黨派の本分を盡くそうとするならば、黨自身を守るべきである。黨は農業黨となり、若しくは特別都市黨となることを許さない。黨は大都市的殖民にも注目しなければならぬし、農民階級の上にも注意を向けなければならぬことは勿論である」と。

基督社會黨は國民を健全なる有機體と認め、總べての關節が正しく榮養され、正しき位置にある時は、完全なる作用が出来ると思つてゐる。之れに身分の感じとか、身分の連類とかに依つて、否定することは許さない。又夫れが爲めに經濟的に反對せられたり、經濟的問題に一線を劃することは許されない。由來階級は何處でも發達した社會には見出される。「差異は離れ、同等は結び附く」階級構成の精神的原因は、實に身分の分れ、労働の分れ、利得の分れ、及び所得の分配等に

依る。階級は到底消滅されず、社會の連絡と秩序との要素を作るものである。併し餘りに先走りしたる階級反抗、苦々敷階級闘争は、文化の消滅を促すものである。國家は諸階級の誤りや階級専制を除き、階級反抗を緩和し、諸階級の平和的共同一致を成就することを考へなければならない。社會民主黨の地盤に横はる一問題は、此れに向つて力を致す國家を助くることである。

國家は同等の結合ではなくて、不同等の結合である。そして人類の個人的等差から、全く自然的に、所有の等差とか、階級の等差とか、社會的階級の等差とかい出来るものである。ペツシユの書いたやうに、「不自然とは、若しも抜きん出た働きと、勉強とに拘はらず、適當な所有にあり附かないものがあつた場合」をいふのである。又之れと反對に不自然に大なる所有の分量が、他の所有を吸収するが爲めに生じたるものをいふのである。又個人的地位と自由とを惡用して、他

人の利益を他に轉ずるやうに力を用ゆることは不自然である。不自然は夫ればかりでは無い、労働者が榮養を充分に取る丈けの資料、家庭に於いて父としての義務を果たすに足る丈けの資料をば、之等労働者を使用する紳士が永久保證の無い地位に置くのも夫れである。

基督社會黨は社會民主黨の要求たる階級の廢止及び除去には反對で、階級反抗の不自然と戦ふ可き義務がある。即ち階級差別の除去では無く、階級反抗の除去が目的でなければならぬ。即ち此處に反對するといふのは、其の原因を除去することに依つて行はるゝのである。基督社會黨は「階級的國家」といふ疑の存する國家を許さない。そして有ゆる階級に對する分配は嚴重に方正平等ならしめることを期する。あらゆる社會團體に對してそうであるが、殊に其の團體の弱い者に對しては、國家が管理しなければならぬ。基督社會黨は公衆安住を最上の法則と

し、身分の安全と、階級の安全と、公衆の安全とを取遣へる事なきを前提とし、利益の均等は公平無私で無ければならない。此の均等は父國の爲めに愛のある黨派と宗教に愛のある黨派とが、此のプログラムを實行する時に於いて、必ず之れに與るを得るのである。基督社會黨は公衆の爲めに、最高思想の實際歸納である犠牲たらんとする者である。宗教的理想中に此のプログラムを組み入れた基督社會黨は丁度階級の調停者であつて、又階級の反對者を衰弱させることが出来る。又彼等は人愛主義、温和、愛及び方正を主とする盡力者であるから、階級利己主義に打勝つ可きである。若しも基督社會黨が、偏重的利益を占有し、彼等のプログラムである「利益の均等」に不誠實であるならば、到底これを行ふことは斷定的に不可能であるといつてよい。若し社會及び國家が國民經濟を明瞭に會得することが出来る時は、利益共同の理想に就いて黨派同志を教育する事は困難でなから

う。丁度戦争が各個の職業階級間に於ける利益共同の大組合を構成せしめ、そして總べて相互に其の利益を示し、夫れが相互に關係せるものたることを示したやうなものである。此の方法は實に基督社會黨の根本運動及び國家安全の方策であるばかりでは無く、有らゆる階級の共同利益を保證する所の、眞の經濟組織なのである。

六、猶太人問題

自由黨と社會民主黨とは、猶太人と其の固有民との融和に依つて、猶太人問題は解決が出来るものと信じて居たが、併し今日迄に彼等の一般的發達に現はれた所では此の希望を滿さなかつた。猶太人は、彼等の經濟的及び文化的生活に於いて、此の融和の試みに就いては、常に新なる誤解を惹き起した。此誤解の諸原因

は猶太人型と猶太的觀察中に存する。自然的反對は、彼等全獨逸人種と、猶太人との間に生じて居る。各々の個人的人格のやうに、特殊の弱味と特殊の優秀とが各個の人格から國民性を生む。今日の猶太主義法は、少くとも衝突とか除外とかいふ結果に成ることを説明して居る。最も深い原因は、總べての猶太人種から會得せられる。亞歷山第二世は彼等が壓迫を受けて居た間に、露國猶太人に猶太人の聖書を許可した。此事は一八九一年八月七日の維納發行猶太人普通新聞に掲載せられたのである。其の記事を抄出すと左の通りである。

「僅少なる者の共同利益を、上邊ばかり具備して居る露國の猶太人に、何故に帝王陛下は賛同を與へ給ふか。眞に之のみが宗教的嫉視であらうか。拜金貪慾の吾等をして速に利得に走らしめ、吾等の野蠻で馬鹿で暴慢で、高位を極めた貴族や吾等の暴利家や、吾等の收賄家や、其他不正家が露國人を苦しめ、商業社會の嫉

妬を喚起し、そして君主階級の侮辱を喚起せしめたのである。陛下の下には尊敬に値するほど陛下の機嫌を取ることにより努力して、其の御氣に入つた者が居ることとは争はれない。けれども彼等は日となく夜となく、ルーブルの爲めに急速に産業の發達せんことを希ひ、そして他の利益を知らぬ群の中に潜り込み濟まして居る——吾同胞兄弟よ、百年間の防禦の手を以つて、斯る不快事を打ち消せよ。猶太的國民に確固たる道德的證明を與へ、彼等の精神に慰安を與へよ。そして吾同胞を高尙ならしめよ」

彼等の大部分は猶太宗の模範的信仰が脱落したので、猶太人種中に存する不快な性質を除去した。猶太人の道德主義的精神の作用に就いて、プロフェッサー・フェルステルは次のやうに論じた。「此の優秀なる缺點は全く程度が無く、彼等の内的生活を自己文化の爲めに盡くす事に根ざして居る」殊に「——公に自己奉仕の非

猶太人主義を隠くす技術を以つて、與ふる事にも、關係する事にも、彼等の性格を顯はして居る」之れに續いて彼等に現はれて居る事實は「猶太人には利己主義的犯罪行爲が深く浸潤し、彼等にはスラブ人のやうに緊張した立派な勇氣とか、ローマンズの衝動の如き、自己をなくして同胞の爲めに盡くすやうなことは出來そうも無い。」獨逸の國民的自覺は、此所に説明した人種的特異質と戦ひ、非猶太人主義に對する同化力の反應となつて居る。若し獨逸國民が、之等の危険と融和することがありとしたならば、それは猶太菌に對する殺菌力を弱くして、忽ち其の猶太菌に恐るべき培養地を與ふることとなる。海外の精神書と其の精神書に顯はれた感動に近づけ、若しくは彼等に容易く其の特異性を磨滅せしめ、或は外國語を譯して彼等に示すなども決して悪いことでは無い。世界市民主義の此の傾向は獨逸人は非常に發達して居る。其の例としては英國人スラブ人或はローマ人の

如くである。獨逸魂は恰かも帆前船に乗つて、向ひ風に逆浪を乗り切るやうな感がある。此の時に當つて、自己を棄てる如きは、何とも思はぬ大膽さがあり、公的野戦に於いても悦んで犠牲となる。獨逸魂は內的及び外的危険に向つて、不具となる事を厭はない。

若し一般獨逸國民と猶太人とを同化することが、希望通りに行かぬとすれば、彼等猶太人を特種國民として取扱はなければならぬ。猶太人問題の明瞭なる解釋は今日の各政黨に取つて、最も喫緊事である。猶太人の跋扈は既に自由主義の旺盛であつた時代より繰り返されて居る。其の當時は、非猶太人主義は外でも無く、小産業や小農業を其の手下に附けた大資本家的精神の最良なる先鋒戰士であつた。此の時代に基督社會黨は誕生したのである。此の無遠慮なる猶太人が、資本的發達の助を以て、自づから獨逸國民と融和せんとしたことは、基督國民に深

手を負はしたものである。彼等の或る一部分は、精神的物質主義を以つて満たされ、彼等の融和力は、社會民主的及革命的運動の助けに依つて實行されたのである。又彼等は非猶太人主義でない人材の、其の特性として多數を融和さすやうな熱狂者宣傳者を其普及の舞臺に立たせ、猶太宗に生れた多數の宣傳者組織者及び運動者を作りたる事は著しきものであつた。固より猛勇なるマルクス、ラサール等が、火のやうな革命の率先者となつて、之れを民衆に教へたことも驚くには足りない。最終の革命に於いても、至る所猶太人が革命先驅の位置にあつたことは事實である。併しながら革命的社會民主黨及び戰爭中に於ける猶太人の多數は、善き危険なき仕事に従事し、新なる非猶太人世界に在る者を危険な運動に與からしめた事は明かである。先見ある猶太人は、新なる危険が猶太人に廻り來るを自覺して居た。故に彼等は猶太人主義を知らしめ各地に散亂せる活氣ある猶太人を

集め再びパレスチナに猶太國民の中心を建てやうとして居る。又猶太國民は獨逸の國內で、彼等自身の爲めに自決權を得ることに盡力し、そして彼等は國民的及び文化的慾求を充たさうとして居る。若しも彼等が獨逸議會に代議士を送ることゝなれば、必ず獨逸人の道連れとはならず、利己的の代表團を作らずには置かぬと思はれる。基督社會黨が何故戦はなければならなかつたかといふに、猶太民族は基督民族の上に重荷となつて、常に基督派を不興ならしめ侵害するからである。普通人と彼等とはテンデ私慾心、蓄財心、革命心、強慾心及詐欺心の見方が違ふて居り餘程距りがある。何故といふに、彼等の種族的遺傳が、斯くの如き素質に生み附けたのである。之れに反し獨逸人は彼等が純獨逸民族に行つた所の融和法を防禦するのである。彼等の障害は彼等民族のプロセント數に相應しつゝある。之れが純獨逸民族の恥辱だといふのである。彼等は經濟上に技術上に、

そして政治上に、其の領分の五プロセントを占有し、純獨逸民族の文化的特性に、大なる危険を及ぼすやうな重荷となつて居る。此の危険が益々増大する毎に、純獨逸民族は精神的物質主義に陥り、そして基督的獨逸魂の革命に障害となるのである。基督社會黨の非猶太人プログラムは外ではない、唯獨逸的基督國民が、民族的及び宗教的特性を、國家生活及文化生活の上に、障害を及ぼすことなく、獨逸民族の生活を高尚ならしめんとするのである。これが獨逸支配の下に彼等を置くことの出来ない所以で、モシそうしなかつたなら彼等は、サロンの割當に迄も用意を爲し、獨逸民族を屋根裏や穴藏に追込まうとする。さればモシ今日猶太化を許すならば、民主黨の門を叩く非猶太主義者は、益々多きを加へるに相違ない。

七、經濟政策

國民經濟の建設と革新の爲めには、私設の資本的及び階級的利益を目的とする制度を行ふことを許さない。されば第一着に民衆總體の安全を要求すべきである。けれども各自の土地及總べての生産機關を擧げて、絶対に社會の共有たらしめる社會主義には反對なのである。そして彼等は基督的世界觀に據る私有主義を希望して居る。

第七及び第十神詔では私有を認め、神は自分自身に之れを許し給ひて、神聖に保護せられた。「汝自ら盜む勿れ、而して隣人の所有を貪り取る勿れ」と申された。私有主義を全く避けしむる事は、個人的經營の趣味若しくは樂しみと、個人的責任感念を考へさせないから、之れを許す譯に行かぬ。絶対の均一は牢獄中だけに行はれる。基督的に觀た私有主義は、一般の善行に役立てることが出來、公の利益を助けることが出來るものである。モシ私有主義が有害となり、民衆の利益

と合致しないことを認めた時は、政府は法律を以つて私有主義の制限を行ひ、私慾及び暴利を行ふ障壁を破壊することを承認する。自ら勞働せざる人類が、世界の主人となるやうな組織を、非基督主義と爲すけれども、自己の所有から所得したものの主人たる事は承認するのである。

基督社會黨は無制限なる私有主義に盡力する自由主義の迷夢から離れ、個人的自由の上にも少しも顧慮なく、子供を浴槽中に放り離しにせんとする社會主義とも離れんとする。それは基督社會主義は共同的私有財産の高尙ならんを希望するからである。同黨は中間に立つて、其の私有を必要と爲し、唯公衆安全と共に、私有財産主義の調和を圖らんとするのである。社會民主黨は直ちに大なる革命が社會主義的國家を齎すと信じ、そして其處に未來の世界を建設した。

彼等は不快極まる國家的秩序が全滅した證人であるといふ。併し思慮ある社會

黨員等は、土地の私有と生活を廢して居つたら、それこそ獨逸國は最も恐るべき經濟的破綻に遭遇した事を熟く知つてゐる。獨逸に於ける變革は、社會主義者を高く鞍上に祭り上げた。けれども社會主義的社會の產婆は、成就するやうに産ませることは出来なかつた。そこで、根本的社會主義者は、舊經濟法に憤慨し、社會主義政府が紳士間的社會政策より爲し得ないのを憤慨し、一二大經營の社會化より外に手を出し得ぬことを憤慨して居る。明星の出現を期待して居た同志は、再び將來を考へて元氣附いた。併し彼等の先達は、自黨のプログラムに多く約束した事と、私有財産主義の全廢が遂行すべからざる事とを合點しないのである。

露國では既に其の試験が濟んだ。即ち社會民主的プログラムを遂行せんとするや、饑饉とか糧食缺乏とか、企業の休止及び障害とか、總べての物が勞働社會を非常な困難に導いた。基督社會黨は、私的利益が民衆共同安全の利益と伴はなけ

れば、其の進歩が善用されたものとは信じない。若しも農民が國家の日雇稼人に落ちぶれ、そして彼等の生産は唯猶太人の中央にのみ集合するを許す如きは拒否するに相違ない。戰爭中の實驗は、若しも農民に土地の社會化が起つたなら、彼等が如何なる事件を起すかも知れぬといふことを示したではないか。其の他工業的大經營の中にも其の傾向はあつた。此處に生産力に害を被らさず、共同利益の私有資本主義的生産の全部又は一部の廢止を要求する生産區がある。ドクトル・リユーゲル氏は維納に於いて、都市經營で道路を開きつゝあるのを見たといふ。こんな私有資本主義的獨占事業が、國家、町、村等の占有に變化し行くのは、私有資本の協力上の移り行きであつて、又側面から基督社會黨が之れを要求するからである。此の各種社會化の試みは、特別の場合として注視せられなければならぬので、社會民主黨のやうに、有らゆるものを一つの目的の爲めに、好んで犠牲

にしなければならぬから、社會化に依る害が労働の生産力に附随するなきや否やを調査して行かなければならない。私有財産主義の正しき觀察には、又國家が共同的國家所得及び利得に就いて、一定の協定法律を作る必要がある。不正義と感ずる事項は、小部分の階級が、國民經濟の共同收入に於いて、比較にならぬやうな大部分を占有し、一方には之れに反して、人類の多數——大部分が、人間として住み生活するに足らぬ程の少量を有することである。若しも各國家が社會正義に打勝たれる時は、國民經濟の共同收入の大部分を、程度を越へて少數者が分取りせぬ前に、物質的貨物及び文明的貨物の一定量を、各人に正確に與ふる健全な社會を定める事が出来る。

將來に於いては所得と所有との正しき分配が、前以つて壓迫せられず、眞面目なる性格を損じ、若しくは國民經濟の共同目的に強い影響を及ぼしてはならぬこ

とに成らう。戦時利得の大所得や非常に莫大なる遺産税等は、此の原則に依つて算入せんことを要求せられるのである。基督社會黨プログラムが、此の要求を高めんとするには、第一着に破壊した國家の財政を整理せしめて、戦禍を回復せしめるのであるが、夫れには總體の國民所得及び其の收得の上に定律を許し、そして政府は労働所得の前に、失業的所得に對しては無遠慮の税を課してはならない。基督社會黨は、労働的人間に、其の生産と分配とを、其の分相應に占有させやうとするのである。そして私有經濟の許す限り之れを取らしめ、但し夫れは共同安全の利益を必要とし、遂には此の私有經濟が、社會的全部に連結せられなければならないのである。之れを基督的社會主義といふのである。併し彼等は、社會主義の名稱は避けたいといつて居る。何故かといふに此の名稱の下には、共產主義であるとか、社會民主黨であるとか、私有經濟を承認せぬことを意味する

からである。基督社會黨の未來は、労働者の指導者でもなく、社會主義的民主黨でも無いが、矢張り社會民主黨であらねばならない。

八、工業労働者及確定使用人問題

社會民主的プログラムは、中等階級に問題を與ふる空隙は無い。如何となれば唯労働者と、占有者の少部分とに問題を與へて、其の經濟的發達を定むるに過ぎないからである。

基督社會黨は、中等階級を除外する爲めに大工業及大占有が發達するものとは信じない。將來に於いては労働者も亦直ちに占有者であるが故に、問題は誰に關係する。旺盛なる工業の傍らには、又給付能力的作業階級及び農民階級がある。作業的中等階級の維持は共同の利益中に在るでは無いか。中等階級は經濟的

獨立の爲めに、獨立生産の餘地を持つて居る。吾々は中等階級中に方正な紳士であつて、民衆に模範的感覚を與ふる大努力家を見る。こゝにいふ人々に依つて、共同團體の強い結合が、根本的に、革命的に、宗教的に、國家的に、將た文化的に顯はされる。獨立的責任地位と、新にして効力ある反動力と、經濟的原動力とは今日の要求である。自己所有の利益は、前進獎勵の主なる線を劃する。新なる發見も發明も、皆之れから目覺めるものである。

戰爭中には小産業的中等階級は、重傷を負はされた。彼等の稼業の周圍に、多くの産業經營者が押し掛けて來た。そして小經營は大資本に吸収せられ、大なる進歩を大産業に與へた。多くの經營者は、原料と労働者とに缺乏して、生産を遂行することが出來なかつた。例へば商人や産業經營者は、戰爭中に十分の滋養を得て、光輝ある利得を増した。此の特別な利益の爲めに、世人の眼を暗ますこと

は出来ぬ。其の裡面には悲惨なる現象を呈し、大なる資本的工業の發達及び私有獨占が一般の暴騰を起し、富の吸収力は少數の手に歸したのである。所有及經營の集中は、平和の二十年間に幾倍するほど、戰爭中に大進歩を遂げた。多くの場合大資本主義的利益の使用せられた中央部は、大資本主義的利益の代表者及び希望者に機會を與へ、其の販路の關係及び準備を作らしめ、小經營には之れを報告しないばかりか、其の原料さへも奪ばふたのであつた。戰前より手工は資本主義的大經營に對しての能力、及び競争力を維持することが困難であつたが、戰後に於いては尙ほ一層困難に成つた。基督社會黨は、國家的の立場から見ても、甚だしく害を被つた産業經營者を、再び回復させる事が必要であると認めてゐる。若し基督社會黨が、自由黨及社會民主黨の反對に、製造工業の旺盛に拘はらず、手工を活氣あるものとしたからとて、彼等は民衆安全及び利益の進歩に容喙したり、

之れを論争することを好むものではない。産業政策は通信を失つた爲めの争議とか、經濟的發達が最早現在の均一を保たないのに一階級の技工的維持繼續とは同じ意味のものではない。吾人の産業政策に就いての要求は左の通りである。

(一) 團體理想 (二) 手工階級の教練 (三) 手工保護の立法

彼等が團體理想を其の眞先に置く理由は何かといふに、模範的技術の發達及び需給の緩和が自身に出来るからで、彼の經濟界の沈衰の如き、よく注目し得るからである。此の團體理想を要求し、又保護するは國家の問題である。即ち義務的の團體や組合やは、之れを大に發達するやうに管理し、之に反し自由組合(工業組合、原料組合、商品組合、信用組合)等は満足に發達させぬやうにする。團體理想の要求と同様に必要なのは、手工の技術的及び經濟的の教練である。美術手工界の保護の爲めには、一大開放を必要とする。今日獨逸の美術手工界は、新時

代への門出にあることを疑はない。獨逸工業同盟は其のプログラムとして「美術工業、手工の高上」を呈し、「産業的晩成」の大切なる點として認めて居る。同様に工業同盟は、手工に對し大工業の發達が害あることを認め、大工業の排除又は其の制限に依つて生るゝ幸福は見向きもせぬ。彼等が痛切なる叫びは、手工とは稱せられず、器械の据付け役、器械の改め役などゝしか思はれない所にある。一九〇八年のミュンヘン博覽會の「工業同盟調査書」中に次の如き事が掲げてある。

「工業的教育法は、他の種々の公的教育法の改良が、着手せられずには改良せられぬ」と。今日の公的教育法は、共同的實際生活とは離れて進み、學術的教育の要素に供せられ、實際製作の徒實際勞働の徒を侮辱するも甚だしい。今日の學校教育を見るに總轄的に言ひ顯せば七年から八年迄は、學童の一人に口を開かせ、五十乃至六十の他の學童に耳を開かせて居る。そして勞働の徒には何んの教育も無

いのである。學生は小學校を出ても、満足に實際の仕事が出来るやうに發達せぬ爲めに、屢々苦痛を感じる場合がある。——産業的教育を要求する者は、若し出來るならば自身を最も高尚に意識するやうな、特有の魂を持つ教育をしなければならぬ。彼等の産業促進運動は餘りに多岐に亘り、餘りに模範的であつた。そして唯之れを永遠に行ひ永遠に建設するやうにした。

産業政策の第三の目的は組合法と教練法の要求、反響なき競争に對する法律、巡廻商業、物品置場、消費組合等に對する加税、建築手工者の保護、公に供給する小工業の配置、軍隊給與等に對する法律等を總轄するのである、殊に忘れてはならぬことは、小産業經營者に對する社會保全の擴張である。政府は此等の保護を行ふ場合に單に安全枕であつてはならない。其の補助たるや、自動の反對に出でぬやう努力しなければならぬ。政府の産業運動に少しも感謝を持つて居らな

い基督社會黨は、唯手工の開放を要求し、常に其の能率の増進と、生活の安易とを主張する。

多くの社會政策者等は。確實なる使傭人を中流階級に算入した。即ち公吏、銀行會社の役員、教育者、腦力的雇人等である。此の階級は戰爭の結果、手ひどい目に遭つた。彼等は幾度か増給の沙汰はあつたが、尙ほ不足で戦前からの蓄財を消費し、尙ほ負債を作つた。戰爭が之等階級に負はせた瘡痍を助けるには、平和中經濟政策を完全にするより外に方法は無い。物質的に保證せられた階級と程度的に構成されてる農民階級とは、購買力が優れて居るので、一般の經濟生活に就いて最も著しき殖民階級を爲して居る。何れの國家も、精神労働者の内から、四級民の起ることに頭を悩まして居る。

物質的大繁昌大陸盛に遭遇した工業的労働社會は、戰爭中は一般によく生活し

殊に戦時工業に勤務した労働者の給金は、二倍にも三倍にもなつた。給金が高く
なつた爲めに、支出も之れにつれて多くなつた。腦力労働者の収入の如きも、平
時に較らべて増大したのであつた。併し之れが爲めに労働時間が超越して肉體的
勞力の使用を受け、健康に供はぬ労働をした。そして生活法の窮窟な爲めに、定
まつた力の使用に應ず可き榮養は、常に缺如して居つた事を忘れては成らぬ。勞
働問題の關係は、社會民主的問題が一般に承認されて居る。埃國に於いては久し
い以前から労働保護法案が唱道されて居つた。若し今日有らゆる政治的諸黨派が
法律的に労働保護を證明したなら、労働者の健康、生活、品性の保護を義務とし
て定めた基督的社會改良、及びルイ十三世王の労働保護として思ひ立つたものと
比較して、其の進歩には餘り感謝することは出来ぬ。新な國民同盟には、労働法、
労働保護法及労働保險を、國際的に整理するに、屋内労働者に優るやうに取扱つ

て、各新なる社會的の重荷が、正義を持つか不正義を持つか、彼等の競争機能の危険に注目すべきである。

社會保險の開放は最早之れを遷延することは出来ない。又労働局の設備は是非要求しなければならぬ。戦前労働給與者の中には、社會政策の實行に對して、見るべき仕事をしたものがあつた。獨逸の第三労働者會議（一九二三）に、基督的労働者宣傳者のグレスヘルツ氏は、排社會的獎勵の時に今日よりも遙に優つて居つたといふ氣の毒なる成績を證據立てた。工業界、中流界、農業界を廣く眺めて、労働者保險に對して鋭き反應が現はれたことに注目する必要がある。

又一方には保險病と云はるゝ蔭影を惹起した。即ち労働者の保險利息増殖のヒステリーに罹れる者及び虚偽虚榮の群が出来たのである。此の退歩的運動の原因を見出すことは困難で無かつた。恰かも各種工業の不振の爲めに、工場には保險

の秩序及び雇人の保險が、一層困難であつたのである。そして社會政策的救濟の必要を思はせた。夫れに説明する迄も無く、此れに賛成する時は、社會政策が正しく、討議的に擴大に行はれねばならぬ。斯くして此危険に打勝つ可きである。工場を大にして多くの人間が使用せられたのであるが、戦争から彼等の供給力も増大した。其の他民衆化に依つて、社會的に有力となつた關係は、労働社會に取つては此上なき好機會であつた。

九、農業政策

將來に於ける政争は、社會民主的希望を完全にする爲めに、土地の絶對的國有を行ふか、又は制限的の私有主義を維持するかとの二ツである。國民の所有する總べての財貨は、常に國民の營養に消費するものばかりでは無く、國民精神を革進

し、國民の心機を一轉させるものも、總べて此の古き土塊より生ずるのである。此等の財貨は少數者の占有であつてはならない。何物も總べて有力なる農民階級の御蔭である。然るに民主黨は工場保護を重んじ、其の經營一致の原則を作らんと欲し、夫れを農業に及ぼし、そして大經營を小經營に優越させんとする。基督社會黨が獨逸の高山地方の成績を調査した所に依ると、國民經濟の立場から見るときは、中等經營の農民が其の家族と、共稼をして得たる産物が直接彼等の利益になるものと、大地主が小作人や日傭人を使ふて得たる間接の利益とを比較すると、後者の方が劣つて居るといふことである。此の中等農家が倒れることは、獨逸高山地方が貧困となつた元なる原因である。獨立中等自作農業者の能率は、確かに大地主經營の能率に優る事を、フオラルベルグ地方の耕作の報告が一九一五年の農業年表に掲げられてある、其の一例に、ムールといふ所の谷間の村のこ

とが出てある。其所の獨立自作農の内十八人は一九一五年戰線に立ち、四十一人は馬を徵集され二人は戰時穀物輸送所に徵集された穀物を輸送した。其の高はライ麥と小麥とが一萬八千九十二キロ、大麥二千八百十五キロ、燕麥が二萬二千八十五キロ、牛が六十九頭で、牛乳は日々八十一リートルづゝ病院に送つたのである。其の爲めに耕作は出來ず、従つて收穫や牧畜や何れも大なる障害を蒙つた。之れと従前から二十七人の農夫を使役して居た二人の大農とを比較すると、此方は其の農夫の中から四人を戰爭に出したが、馬もライ麥も小麥も出さなかつた。大麥は四十五キロ、燕麥が三百四十キロ、牛が七頭、牛乳が五リートルであつた。此の徵發は大地主としては甚だ軽い負擔であつた。そして彼等はパンの切符を要求し、然かも道樂に飼養したシベリア種の鹿は一匹も減らなかつた。斯の如き徵發に應じた實況を見ても自作農の眞面目に其能率の確實を示すものたる事は明で

ある。

カウツキーは社會民主黨のプログラム中に述べて曰く「手工と相當するのは、農業的小經營である」と。社會民主黨は工業と農業との間に、非常な區別のあることを看過して居る。農業の生産する所は重に生物であるのに、工業の生産は死物といふて良い。農産物は直に人類の活力となるが、工業の生産物は人類直接の營養物とはならぬ。此の差別があるから農業の小經營に考慮を置かなければならぬ。農民及び其の家族の個人的労働を見れば、其の労働の輕易なる點だけでも小農は彼等に適應して居ることを確める。いづれに行つても大地主の大經營になるものが經濟的に優れて居るとは認められぬ。又耕作の片手間に銃獵や牧畜やに依つて収入を圖ることも多く實驗して居る。基督社會黨の希望は、再び獨立的農民經濟を建て直すこと、及び戦争に依つて不具となつた者に土地を與へ農業に従事さ

せるやうに、法律で國民經濟に障害ある大地主を廢止することである。若し之れが出来れば、各農家は再び其の生活にあり付き、前世紀來五十年間の衰頹を回復し、高山地方に農民的殖民の非常な増加を期待する事が出来る。木材、牧畜、菓の上納の如き、封建時代の遺物は、減させなければならぬ。然るに今日尙ほ數億ヘクターを越ゆる上納をやつて居る。斯る不秩序な事情の爲めに、牧畜は困難となり、農業を爲す根本の土地は不安全となる。而して又従前の暴利及び強慾に對して土地を保護する爲めにも、農業的改良は必要となる。故に自由遺産權の繼續は害があるから、新なる相続法を定める必要がある。屋敷法も亦永遠の所有權を破壊し、負債の超過を避くる爲めに必要である。今日迄の法律では總べての場合に土地田畑は貨物となり、相場投機の目的物であつたが、斯んな一般民衆の利益を害する法律は改廢して、土地を改良することが最も必要である。

戦争中に、農民政策は國民政策であつて、農業的生産を高める事はあらゆる階級を益するものであることを注意させた。然かも農業生産が退歩したことは紛れも無い。土地は改良せられ、經營法も其の宜しきを得れば、従つて穀物の收穫も能く高められるのである。之れと同様に今日の有様では牧畜も尙ほ自然の需要に對して供給し得る程發達して居らぬ。此の退歩の防止は農民階級の力には及ばぬ處であるが、新時代の要求を指示すべき當局者も之れを爲さなかつた。之等を十分に教ゆるには、各地方に進歩した學校の必要がある。

今農業的教育法と他の階級教育法と比較して見る時は、其の誤りを絶叫しなければならぬ。農業の經營は模範的でなければならぬ。夫れは組合法でやることで、國家は地方町村を義務的に教育しなければならない。故に基督會黨は地方の青年男女に向つて進歩した一般職業的教育法の根底に農業の科目を置くことを希望する。スタインベルグ氏はグラッで退歩した農業の教育を試みて立派な成績を挙げた。

戦争は、農民の根本的教育を破壊し、非農業的殖民を促進させた教訓者であつた。若し農政が唯だ農民階級の物ばかりと見られたら、夫れは經濟的一致に對する根本的誤解であつた。斯る見解は農民階級の社會的及經濟的意義に對する解釋が、總べての方面に缺如する所から來たのである。農業界の安全は、實に一般階級の寶である。農民階級に對する諒解の爲めに、基督社會黨の要求は、農業教育と精神教育とを、専門學校中學校及び高等學校に實施することである。

農民問題と農業的使用問題とは離れられぬ。農業家も其の勞働者も、共に家族を持つて居て、同じ仕事をし、同じ生活の習慣と、同一の生活觀を持つて居る。我社會民主黨は農家に楔を入れやうとして、火を放つたやうな形である。被傭人

の缺乏は既に戦争前から其の暴威を揮つて居た。戦争が大なる血液の犠牲を拂はせ、そしていづれも地方殖民にも多大な影響を及ぼした事は明瞭である。主人や其の子供や其の傭人等の百萬人は戦争で死し數萬人は不具となり、其の他の者も再び古郷に歸らぬ。強制を限が民主時代に考案されたが、モウ他の物と代へなければならぬ。専門教育を進歩せしめ、之れに依つて生産を増加せしむるのが、最も有効な方法だと思ふ。夫れには先づ社會の保護注意と、地方的安全保護が起らなければ駄目である。モ一ツ好い方法は地方に外形上都市の光輝を爲す刺戟を作ることである。此の刺戟が地方よりも都市を撰ぶ農民が多くなる理由で、全く都市は大なる文化の中心であり、肉體に精神に保護注意が行届き、社交奨励や教育奨励が地方よりも一層旺んである。地方労働者が壓迫を感じることは、其の有地の無いこと、チヨットした外見の必要なことである。エー・タイムル氏「農

業法」中に次の如く書いて居る。「學校は必要であるが、家族生活は尙ほ之れ以上に必要で、之れを等閑視するは甚だしき怠慢である。家族は倫理、宗教、及び従順、愛の培養場である。唯此所にのみ紳士の德育、勇氣、信實、眞の自由が成育する。家族生活は總べての眞實なる人類的發達の出發點であつて、労働を勵み、若し老いて弱くなれば之れに對して友情的保護を目的とせねばならぬ」と。社會の改良は可成農業労働者の家族に根底を置かなければならない。故に農業労働者并に小農の養老保険、不具者及疾病災厄保険が、國民議會に於ける最も大切な問題である。

農業經營に對する殖民の増加と、其の維持とは良好なる成績が殖民統計に顯はれる。かゝる地方では一般死亡率や小兒の死亡率が減少し、結婚者の數は増加し従つて未婚者の數が減じ、子孫の増加する事が實驗せられる。此の新らしい統計

は歸する所都市に於て一部は宗教倫理の缺如、一部は不完全なる病者の看護法、兒童保護の缺乏、衛生制度の不行届を示すのである。故に地方殖民の盛大を招來することは、農政第二の目的として表示せられねばならぬ。地方に於ける健康保護は、有らゆる階級に高めることを要求する。精神的社會政策の云ふ所は次の通りである。「公共的國民資本は、其の貯金箱が二ツあつた。甲は農民階級の貯金箱で、乙は市民と労働階級の夫れである。此の兩方の貯金箱は常に缺點を示して居つた。そして時に甲は乙の缺乏と退歩とを蔽はせられることがあつた。此んな事が出来るのは、利子の行はれて居る間だけで、若し地方的國民資本が侵害される時は、都市の國民資本も、紳士階級も、労働階級も共に倒れなければならない。故に都市の國民資本は、常に誤りを來し、少し宛不整理となる。都市は人生の墓場である。都市では幾代と經たぬ内に其の子孫が絶滅し、其の家族は變り果て

ゝしまふ。之に反し地方には人性を涸渇させない神泉がある。然るに若しも農業的殖民の回避若しくは退歩を支へることが出来なかつたら、其の危険は蓋し想像に餘りあるではないか。農民社會の大部分が住んで居る高山地方を惣轄して居る基督社會黨は、民主的に時代に適應せる農政の宣傳者として、全力を此所に傾注するものである。

十、文化政策

宗教に反對する社會民主黨と、同一宗教の獨逸自由主義や獨逸民主黨と、國家に對して宗教意味を顯はす基督社會黨とは、全く異つた文化政策を取つて居る。ビスマルクを除くのを外、彼れがいつたやうな人はない。「善事を欲し神に信仰を捧げることなくしては、高尚なる裁判官も、將來秩序法だけで共同生活が出来ると

は思はない。若し予が神の信仰を入れないなら、予は地上の君主を許すことは出来ぬ。又君主的國家中には社會奉仕や、自決權や、紳士の自由や、私慾に打勝つことや、個人的本心の精華である同情の聯盟や、高尚なる運動を尊重せねばならぬ。もしそれがなかつたら、社會は無政府に陥り、過激主義になる。宗教を敵とする國法即ち社會民主黨が希望するやうな國法、又は獨逸民主黨の希望する國法は、其の旺盛で繁榮する價值ある力を、自ら殺いで居るやうなものである。此の理由から吾人は國家と寺院との分離に就いては考慮しなければならぬ。學校から宗教を排除することは、國家に取つて大不幸と思ふのである。然るに幸にも此の分離は實行せられて居らぬ。何故ならば、加持力教の僧侶と政府の役人とは同一人であつて、一人で二重生活をして居る。之れを完全に分離しやうとすれば良心の衝突を起させるものである。國家と寺院とは、何れにか害を及ぼさずには

互に他人となることは出来ない。されば完全に之れを分離させることが出来た國家は一ヶ所も無い。寺院を特殊階級の中に入れ、野蠻的仕方で苦しめたものは、佛蘭西やポルチユガルのやうなのは除外例である。米國には宗教と國家との分離はない。大統領は同盟會議の時必ず神に祈つてから開會し、又祈禱の日と懺悔の日とを命令する。又同國には宗教の刑法的保護法が出来て居り、國家と宗教との間に接觸が起るやうに、宗教の自由を保護する事に成つて居る。唯國家の行政機關には寺院と國家との間に少しも接觸點が無いだけである。併し社會民主黨が自由派との合同を實行せんとする時は、他の精神を擔がねばならぬこととなる。併し國家と寺院とが合同協力しやうとする理想は存在する。如何となれば地上の善政安穩及秩序と、倫理の高尙保持とは聯絡して居るからである。だから基督社會黨は、社會民主黨や自由黨の唱ふる國家と寺院との分離には反對するのである。

そして完全なる文化や行政や、教育の自由やが、國家に承認せらるゝ宗教を希望するのである。

此の教育の自由と兩親自決權の上に最も危険なる障害は、之れを總べての兒童に無宗教の學校を強制する事を奨励するものに見る。獨逸民主的宣傳者はグラーツの會議で、宗教々授の廢止を求めた。そして無宗教的國立學校に於ける「道德教授」に、兒童を送られんことを其の兩親に希望する旨を説明した。獨逸民主黨は無宗教的學校——國立學校を拒絶することはせぬ。世界觀の反對を自ら抹殺しはしなかつた。學校中に無宗教的教育を施すことは、基督社會黨獨りが反對して居る丈けである。彼等はいふ「學校は常に學ぶ所であるばかりでは無い、實に教育所である。學校は青年子女に倫理的人格を養成せしむる。」併し宗教のない倫理は不可能である。何故ならば宗教は先づ以つて生活の目的、人類的問題、法律及

節等を確定するからである。故に宗教は、教授各科の教育に在つても、實地的練習の教育にあつても、優秀なる地位を占めなければならない。世界の創造者、領收者及び支配者としての神の教と、精靈の自由及び靈魂不滅の神の教は、基督より吾々に、彼の生活彼の悩み及び其の死が、深く強く、神と心とに、生活の導者として、潛入させられたのである。其の教養は又宗教的訓練とならなければならない。夫には彼等の意識が、神と神との代理者達、兩親達、教師達が、世界的で精神的な義務を負ひ、人間の行爲に就いての裁判官となり、そして彼等の賞罰を正し、常に刑罰をも加へられるやうに目醒めなければならない。然るに無宗教の道德は、丁度穴の明いた土瓶同様で、如何に道德を注ぎ込んでも、道德を行ふ義務觀念も、之れを顯はす力も缺けて居るから、側から漏つて仕舞ふのである。佛國では宗教のなき學校にして仕舞ひ、學校を警察道德にしてしまつた。即ち人

の足場を守り人の衝突を防禦して居る。神の前に跪まづかぬ教育者は、やがては自分の子供に跪まづかせらるゝのである。そして其の教は微温的で、其の教の制度も微温的となる。

若しも青年の大部分に必要な宗教的空氣が、學校から抜け出て消滅したら、其の學校は神を偽る物質主義の作製所である。そして遂には無宗教の教育が宗教々育に導くことにならう。併し兩親は學校に宗教的教育を望む権利を持つて居るから、兩親の家に教育機關を起し其學校を作り、そして宗教の再興を爲し、之れを妨げられまいとして居る。宗教々育に離れんことを要求する社會民主黨及び獨逸社會黨は、子孫に對し不正を働くものである。宗教的光明を奪ひ、危なかしい老年者の生涯中に生命を損する大衝突に出會はせるものである。何人と雖ども子供の倫理的宗教的教育を動搖させんとするものは、全基督國民の反抗に當面しなけ

ればならない。選挙の投票日に當つて、彼等は明白に「吾人は十字の像を吾等の學校から取り去らしめぬ」と説き明にすべしといつて居る。

十一、家族、妻及び兒童の保護

基督社會黨はあらゆる基督的家族問題の解決及び其の障害除去に盡瘁する。子供や妻や家族の防衛保護は、婚姻の秘事に其の端を發する。神の許し給へる事實は、或る一方が壓迫を受けるを嬉ぶことである。又普通の善行には、一人が大なる犠牲となることがある。であるから結婚奨励の根柢は、超越した個人主義に置かれるといふことが出来る。社會民主黨及び獨逸自由主義者の希望する模範的結婚の改良は、婦人の利益が餘り重要視せられて居らぬ。若しも男子に結婚關係の破棄を許せば、婦人の解放ともなるが、夫れが悲しむべき結果を持ち來すは明か

である。之れ實に父と母との離別から、其の感情を最も深く傷けられる子供の運命を看過するものである。婦人は最も弱きものであるが、其の家族が之れに向つて、モット肉體的に困難な仕事を強ひるならば、之れ新なる奴隸制度を作るものである。そして若し頑迷な夫に出遭ふときは、婦人は其の肉體から油を絞搾せらるゝやうな、辛き目に遭遇させられることは明かである。神の結び付け給へる人は誰れでも離れてはならぬ。結婚及び離婚の解決を法律で容易に行ふことになれば、基督的家族は常に深い苦海に沈めらるゝのである。

國家は家族、妻及び子供等を保護し、公然其の不倫を制すべき権能を持つて居る。若し國が總國民の安全といふことを、家族構成の上に置かんとするならば、總べて家族の健康を危くせんとする者と戦はなければならぬ。又殖民問題の如きも、唯り經濟的或は精神的發顯のみで説明し得るものではない。國民を支配す

る倫理的觀念が、之れに重大な關係を持つてゐることはいふまでも無い。獨逸自由黨や社會民主黨が宗教を要求しないで、公然不倫理と戦はんとする國家を、空中に建設せんとするならば、夫れは新なる奇蹟である。吾獨逸の減退は多くの科學者の見込に依つて、戦争前より國民の危険として認識せられて居た。併し之れ畢竟科學的進歩が大なる原因を爲して居るに相違ない。けれども出産減少の眞の原因は、家族結合の破綻と、結婚者の減退と、新マルサス主義の侵入及び其の他「模範的」倫理の侵入とに在る。パチユスとベヌスといふ神があるが、此の神は實に青年男子の大部分に、結婚前に出來た初生兒を犠牲としたものである。いふ迄も無く戦争中は品行の不取締から出産が減退した。數百萬人の青年は軍隊に在つて上官から命令的に淫賣婦を買はされた。品行の不取締は輕々に看過することは出來ぬ。此の品行の犠牲が彼等の結婚に依つて家庭に入ることは、常に婦人科醫

及び小兒科醫に依つて唱導せらるゝ所で、年々獨逸に於て數百萬の男女及び子供を毒殺し、パチユス及びベヌスの二神は益々多くなるのである。結婚が妊娠に及ぼす害毒に就いては、唯り醫師の知る所に屬する。彼等青年の本能を支配する品性教育は國民的行爲である。此の教育を妨げ、之れを困難ならしむる所のは、言葉や形容等で不潔を表示することを何とも思はぬ破廉恥な淫賣婦である。

教育に宗教的基礎がなく、絶對眞實に對する信仰が無くては、到底効果があらうとは考へられぬ。故に基督社會黨は教育行政を、國民的行爲の問題として居るので、之れに反する行爲が、國家にありとすれば、同様に反對しなければならぬ。婦人選舉の前には、社會民主黨及び獨逸自由黨の恐怖が察せられる。何故といふに、婦人が家族や家政に最大の幸福を享受し、子供等を完全に保護せんとする時は、宗教の保護なしには不可能だからである。いふ迄もなくそうなれば他の

黨派が勝利を得るのでは無くて基督社會黨のものだからである。基督的の原則としては、夫も妻も二重道德を許さぬ。經濟的關係が不道德や淫賣主義に歸せしめるのであるから、其の匡救は經濟的位置の發現に歸着するといふ社會民主的ドグマにも反對する。若しも公許的不品行が家族生活を没却する時は、言葉と形に於ける不潔に抗議するのは國家の義務である。モシこうで無かつたら、變革後の國家を自由國家といふ名稱は許され無い。又淫賣法を國家の手で維持し、人民が隨所に之れを經營し、そして惡疫を商賣的に使用するなどは傍觀することが出来ない。若年者の「説明」を求めた所が、此の危險に對しては何の防禦にも成りはせぬ。多くの場合慎みなどいふものは、何の役にも立たないものであるから、此點にばかり注目することは、却つて有害に成るものである。若しも公許的不品行に反抗せぬ時は、青年者の教育に取つて、又微菌の防禦に取つて、一般の想像も及ば

の災となるのである。

七二

國家は第三の本務である家族妻子供を保護する義務がある。就中社會政策的制度に依つて、之れを救ふの義務がある。此れにはあらゆる保護の設備が必要で、乳兒の保護、母の保護、微菌の防禦生殖器病、結核、アルコール誤用等の豫防等が之れに屬する。社會民主黨の要求と基督社會黨の夫れとの異なる所は、婦人労働の永遠的制限である。結婚した婦人は家に於いて義務を満足させることとし、子供の看護及子供の教育に困難でないやう之れを不可能ならしめぬやうにするのである。其の理想は各男子が眞面目に労働して、強ひて其の妻子を獨立工業に行かないでも、家族を維持して行かれるやうにするのである。一八九七年のチューリヒに於ける國防労働者會議に基督社會黨の名の下に、ドクトル・シャイチエル氏が、結婚した職業婦人は不快であるといふ立場から、其代表となつて出席し、ベ

トベル及びベルネルストルフエルに反對したことがある。其の反對論は「器械や大工業は今は私營の手にあるが、最終には吾等が開放せらるゝものである。然るに反對者は婦人が家族生活に止まつて居る間は、吾人の獎勵が徹底する事の出来ないことを能く知つて居る」。

と。社會民主黨等は家族の保護を附けたりのやうに思つて居る。多分彼等は家族は將來の國家には、自身で解決せらるゝものと信じて居るだらう。其の證據はペーベルの婦人論に、婦人労働が家族を害する事を承認するけれども、正しい社會組織の下では、古い家族制の婦人の労働が行はれる事をも認めて居る。不快で厭はしい室内労働からは婦人は開放せられ、食事は共同炊事場で調ひられ、共同食堂に配布せられるといふのである。又ペーベルは蒸氣暖房が市中に供給されるやうに思ふて、唯りで喜んで居た。彼はこう書いて居る。「此の暖房問題及び之れ

七三

に類する諸問題も、若し諸都市が前以つて斯る設備をする計畫を以つて建築されば、容易に解決せられる。」住居建築をこんな具合に濃密にすることは感心出来ない。又他の事物に關してもペーベルは惡るい豫言者である。見よ一家族獨立の欲望は建築法を支配し、貸長屋を恐れ且つ怨んで居るではないか。各家庭の下婢社會が開放された爲めに生ずる婦人の需要の如きは甚だ僅少なものである。戰爭は婦人勞働の増加を成さしめた。けれども之れは家族、妻、子供の幸福ではなかつた。婦人は一本調子なものであるから、其の憧憬する所は美なる生活とか家の經濟及兒童看護であるのに、家族生活の外に健康を害する器械勞働に係さはるゝことになる、更らに一層の重荷を増す譯である。製造場の勞働は、結婚した婦人の健康には適しないが、併し經濟的に強制せらるゝのである。ペルネルストルフェルはチューリツヒで中央食堂を作り多數者の共同食堂とした。戰爭中に古い家

族制を脅かすほど生活資料の缺乏に陥つたことは一回ではなかつた。然るに多數のものは大なる困難と闘ひ、犠牲を拂つて、自分の家の中で營養問題を解決しやうとした。されば彼等の家族は公共食堂に侵入するよりも、自分の家で飢えるを好んだのである。社會民主黨は神の家族に給ふ事が、人類の胸中に浸み渡つたことゝ、彼等の心が家を離れて探見とか器械的工業とかに、侵入し得られぬことを看過して居る。基督社會黨は其の全體の發育を正しく與へられた教育を轉覆しやうとはせぬけれども、家族や子供や妻やを、彼等の特性に従ふて善用し、工場勞働に打勝たしめ、其他一體に賃銀勞働に就かしめることは忍び得ぬのである。ペルネルストルフェル氏は婦人が家族中に生活の爲めに踏み止まつてる間は社會民主的プログラムの獎勵を知らうとは思はぬ事を説明した。如何となれば社會民主黨は家族の解決の上に問題を置き、家族制度を廢めることに依つて婦人の最大幸

福を見たいさんと欲して居るからである。

イブゼンが嘗て書いたものを見ると、吾人の國家生活中に、吾人の政府中に、吾人の國會中に、貴族的要素が起つてほしい。そして其の要素たるや金持貴族で無く、才力貴族でも無く、特性や思想や意志の貴族が起つてほしい。之れに依つて國民は眞實に自由となる事が出来るといつた。そして彼は其の公けの生活中的の役目を婦人に振向けた。併しながら彼は政治的生活の上に、婦人に期待したことはよいが、婦人の天職が家族の保護者に在ることを忘れて居る。基督社會黨としての問題は、家族を堅固な強力なものにし、總べての戦と闘つて敗を取らないやうにすることである。

十二、補遺

スタイエルクに於ける

基督社會黨のプログラム

基督社會黨は 吾黨の獨立保持及び他黨と根本的特異の下に、若き獨塊の共和國に、價値ある平和的發達を遂げさせるやう協力することを決定した。吾人の最高の目的は、倫理的、精神的及び物質的に 民衆安全の爲めに行はるゝ事が、總べて基督的信仰の上に基礎を置く事を要求する。

(一) 外的政策

(1) 國民と國家との關係が、常に互に正義に依り、秩序を踏み、毫も威力を用ひぬ事

(2) 總ての爭議は決定的仲裁々判所を開設して、適當なる執行權を以つて國民

同盟を作る事

七八

- (3) 相互に永遠に戦備を廢止する事
- (4) 各國家は國民的防禦を減退する事
- (5) 外交使者の完全なる革新、秘密契約の廢止
- (6) 自由なる經濟的發達、各人民に對する自由と平等、海上の自由
- (7) 労働者の權利、労働者の保護、労働者保險の國際的整理

(二) 國內政策

(A) 憲法

基督社會黨は國家中に、人民を土臺とした法律的社會問題及び文化問題を、直接人民投票を以つて撰ばれたる者が、採決する無制限なる自由民主國家を承認す

る。吾人は自由選舉的投票に依つて吾國家及各地方に於ける假設議會の補充を要求する。

此國家内には出版及び集會の自由及び選舉の自由は最も不干涉に保護せられなければならぬ。

基督社會黨は民主的國家の意志に一致せぬ種々の試みには決定的に反對する。

基督社會黨は假設の國民議會に於いて決定した共和的國家形式を承認する。そして此範圍に於いて獨逸國の秩序回復建設に、最大最善の力を以つて協力する責務がある。基督社會黨は吾國家のあらゆる市民が最高にして侵す可らざる義務として秩序の正しき保持を承認する。故に秩序妨害が何れの方面から來らんとしても、絶対に反對せねばならぬ。四年間の戦争に依つて荒廢したる今日は餘力を安全なる再興整理の爲めに使用したい。

總べての解決は、經濟的及び軍事的の總破壊に依つて負債した個人及び其の所罰、障害の附隨、并に自己の法廷に依る取調べが其の目的であらねばならぬ。

基督社會等は將來に於いて、地方集會及び國民集會が、地方と國民との兩方に十分なる力を注がんことを望む。此れは選舉應募者の建設に依つて導かしむる事が出来る。

(B) 經濟政策と社會政策

民衆安全に伴ふ國民經濟の建設と整理、吾人は根本的に土地私有の維持と、他の生産貨物の維持を主張する。之れに依つて個人的企業計畫の趣味享樂と、責任感念を起さしむるからである。併し民衆の利益に屬する私有財産の制限は、是非共之れを行ふ事が必要である。

國民經濟に障害のある大地主は、法律的に其私有を廢したい。夫には適當で良好な殖民方法を撰み、從軍者の家庭を土着せしめ、又農民經濟及び其の設備を完全ならしむるやう獎勵し、使用人の獨立經濟の希望を達せしめるやうにしたい。狩獵優越權及び漁業優越權の開放を要求し、森林、木材、牧畜、藁等の徵集の廢止及び高山地方の保護を要求する。

(C) 暴利強慾に對する制禦

地方農業經濟及び能力ある農民級の保持の爲め此の制度を要求する。暴利、強慾に對する土地の防止（法律を以つて）。此の五十年間大地主の爲めに虐げられたる小農民家の再興。組合法の建設。

基督社會黨は私有資本主義的の獨占到對し、夫れが公に法律的に許されてるも

のと否とを問はず用捨なく戦時利得を差引き、大所得大財産の大部は之を没收し、殊に大なる遺産には重税を課す。そして此等の収入を以つて這次の戦年で蒙つた強度の負擔の減殺や、職業不能者及び戦難遺族の社會的救済や、戦争の爲めに障害を受けた中流階級が新らしく事業の經營に有附けるやうにすることや、國民が節約して應じた戦時債券の保護等に充てることを要求する。

商工業の自由中等階級保護の要求及び有害なる中央經濟の開放。

最終の希望としては社會保全の爲めの放免であつて、労働局を設置して農業的殖民に於ける社會問題を整理し、仕事を與ふる人も與へらるゝ人も、夫々其の關係の上に適合するやうにし、農業的任務が都市及び工場とは全く異りたる仕方ですべて完全に實施せられんことを要求する。

かういふ風に次ぎから次と、スタエルマルクの會議に示したやうに、内容的自

然寶庫たる水力、荒金、石炭、磁石及び木材等の經濟が、地方に増進するやうにしなければならぬ。

(D) 文化政策

基督教社會黨は、其の立脚點からして、宗教的自認と宗教的實行即ち寺院的社會組合及各信仰組合の完全なる自由の爲めに、宗教的修業及び権利の開放を要求する。

國家と寺院間の關係整理に就いて、宗教社會の安全を期待する全き保護を希望する。自由學校とは反對に學校に於ける倫理的宗教的教育と、兒童の上に兩親の保護家族及び結婚子供及其の母親等の保護、殖民政策の改良、公許的不品行の對策保護を要求するのである。

國民と國家との將來に就いての國民學校の意味は覺ることが出來た。そして信仰的諸原因に従ふ國民の改良及び其の實驗をも覺り、そして期待する殖民の需要に適應せしめることが出来る。各人の見込みに依る必要な問題に就いては、大抵其の希望に添ふやうにする。又教師には職業的に満足ある地位を與へ、之れを物質的にも安全ならしめ、憲法に依つて國家の役人として保障を與へる。斯うして男女地方青年に、普通職業的促進教育法の速かなる成立を望み、其の他農業的技術及び國民的精神教育が、専門學校、中學校及び高等學校の總べてに實施さるゝことを欲するのである。

總べて自由なる道を辿る階級が、力強く高尚なる發達の可能と其効力可能とを要求する。

十四、獨逸領に於ける

基督社會黨の選舉プログラム

此のプログラムは一九一九年の十二月十五日に於ける維納基督社會黨の會議に採用せられたものである。

自由と社會正義は國家生命の根柢であらねばならぬ。基督社會黨は國民が其の選舉に當つて、自個の覺悟に依つて決定した自由民主的の無制限なる選舉を承認する。根柢を有する國家的法律の問題、社會問題及び文化問題は、國民の直接投票に依つて裁決せなければならぬ。

基督社會黨は假設國民議會で決定した共和國形式を承認し、そして國家形式の範圍内に於いて、父國の秩序ある再興に、最善にして強力なる努力を以てて盡くす

義務を覺悟するものである。

基督社會黨は方正なる自由に背く宣傳をしたり、一黨又は一階級の爲めに企てられた諸種の試みを判別することに盡くす可きである。斯る誤れる選舉の擴張は婦人並に比較選舉實行の上に、秘密なる選舉權に禮拜する事があるからである。故に選舉に當つては、選舉集會及び出版の自由に干涉なく保護せらるゝ事を要求する。

基督社會黨は地方町村の權利を承認し、その再興を要求する。

基督社會黨は行政に關して彼の繁雜なる中央主義の再建造を要せぬが、之に反して事務取扱の簡略短縮及び目的に叶はざる繁文を避くる事を要求する。

社會的秩序としての基督社會黨の要求は、民主的發達が威力的に轉覆せられぬ事に成る。基督的人民黨として基督的結婚に就いて國家の十分なる保護を要求し、

そして健全なる國家的生命の豫想として、家族制度の再興を要求する。國家は戰爭と其の繼續とに依つて甚だしく震駭せしめた家族生活を、必要なる殖民問題として解決するに有効なる方法を取らんことを要求する。

基督社會黨は青年を倫理的宗教的に教育せんことを要求し、無宗教學校を排斥する。吾等はあらゆる獎勵に對して文化的競争の無拘束を前提とするものである。無益の鬭争は國家の再興を困難にする障害となるのみである。基督社會黨は獨逸黨として他國民的隣邦國家が、祖先的獨逸領に降伏するやうな、自決權を誤用するものは絶對に防止する制度を要求する。吾黨最高の國民的義務は、獨逸國民の内の實力にあり。故に吾等は國民的品性及び文化の保護、國民教化の高上、及び精神的道德的に健全なる國民の保證殊に此等保護所及び療養所の目的を達する爲め、有力なる總べての計畫を約束する。又出産の減少、乳兒の死亡、結核及び生

殖器病等が、戦争中に著しく増加したるに鑑み、之れが防禦に對する設備を多求する。新國家に拔きんでたる猶太人の團體及び統治權が、吾等基督社會黨及び獨逸國民に壓抑を受けて居る。獨逸國民は何時迄彼等猶太人の壓抑を許す事は出來ない。

基督社會黨は、多數獨逸民族の獨逸領に於けるもの、再結束に依つて、長き間懷抱せる或る理想の實現を見るの機會に達した。

獨逸外の隣國に於いては近く共同的經濟が利益に適するやう、良好なる關係に回復する筈である。アドリア海は無條件で出入を保證されなければならない。之れに類似した惡傾向は、現在のやうに人道の頹廢を來すことであつて、この危險を閉ざんとするには、有らゆる國際的關係が野心なき親密なものとなり、一般の軍事的撤廢を行ひ、國際裁判所を組織して總ての事を決し、國民同盟の教育を奨

勵するにある。未來の獨逸國保護力は、内部の秩序と靜穩を保持するといふ見地の下に施設すべきである。

基督社會黨は、戦傷者及び戦争中に落ちぶれた遺族の救済が、完全に行はれることは彼等をして父國感謝の念を起さしむるものと認む。戦争中に全く破壊せられたる經濟の再興には、國家の有らゆる力を緊張して當らんことを望む。故に基督社會黨は工業工場も農業も同じ方法で、都合好く行き渉るやうな生産政策を要求する。戦争に要した負債の償却は、眞面目に講じられなければならない。此問題は國家自身に取つては非常なる財政上の負擔である。基督社會黨は其の方法として過剰なる戦時利得者の減殺、私有財産の根本的整理、大なる利益及び所得に對して適當なる課税を行ひ、又遺産税の改革に依つても償却の財源を得ることが出來ると思ふ。公共の基金とか保安所とかの爲めに細民の零細なる金を預り、共

同貯金として政府が管理して居る場合には、戦時債券の如きは無價値ならしめてはならない。

國民の榮養を保證する爲めに、外國から材料の輸送せらるゝ時は、之れを無干渉に成就せしめなければならぬ。そして基督社會黨は農産物の増加と、農民階級の強固なる獨立維持を保證させることを要求する。

即ち土地田畑に對する強慾暴利及び浪費を防ぎ、地方在住回避者には適當なる保護を講じなくてはならぬ。民衆の共同利益に供へない、榮華の目的に用ゐらるゝ私有財産は強制的に解除し、除隊になつた軍人に家庭を作らしめる設備に充て農業使用人の補助に供し、或は地方的共同所有を強める事に使用せねばならぬ。

工業階級及び、商業階級中には、基督社會黨は勢力の減退を希望し、工業的中等階級の發展と、外國から救濟的に原料を供給することを容易ならしめる事を要

求し、工業的信用法の改良并に少數者の競争相場に對しては嚴重なる處置を要求する。

諸階級の職業的利益代表は、民主的基礎の上に建設してある。改良されたる商業局及び工業局等と同様に、特殊の農業局及び労働局を設置すべきである。

確實なる俸給衣食者の地位は、彼等か私的義侠的使役或は公的の何れであつても、是非共有効なる援助を要求す。基督社會黨は感謝祈禱の第一歩として、全體的四階級民化の前に、此必要な階級的救済を考慮するものである。最も必要缺くべからざるものは、私立の四階級民寄宿舎の改良である。

労働者社會の改善は大なる社會問題を解決するものである。此處には其の根柢を新國家の憲法に置かなければならぬ。基督社會黨は労働者保護と、模範的労働者の權利伸張を要求する。又吾等は労働時間の最長及び最低賃銀の法律的確實

保證を要求する。又病災保險及び不時の災害保險の改良、養老保險、障害保險、失業保險の改良並に鰥寡及び孤兒の救済を要求し、地力及び山間の農業労働者の保險義務の擴張を要求する。浮浪人法及び農業労働者所得の改良、被傭人、室内工場を社會的立法に依つて保護すべし。

基督社會黨は都市的土地改良と共に、時代に適應し住宅の改良を要求する。

基督社會黨は婦人の權利に就いては、女性に適當なる一般的職業及び官吏に適當なるやうに教育を開放することを要求する。又國家的母性保護、女子の労働者及び女子幼者の保護を、法律的に行き届きたる制度を要求する。婦人労働に關しては、男子と同じ労働に就いては、男子と同じ賃銀の支給を原則とす。

十五、低地塊國の農業者同盟プログラム

獨逸領の農民階級は、罪なきに没落させられて居る。彼等の階級は戰爭中は國民の榮養を司どり、而して今や左の如き問題に當つて居る。(A)民産物の増加、(B)國民の營養を外國の干渉を受けないで保證する事(C)國民の利得を作る事。

A、農業改良

其の方法は(1)消極的、農村階級の部分的解除には賛成なるも、新なる負債の負擔(税)を許さぬ事。國家的保護。(2)積極的。

(1) 小農的所有と中農的所有の構成。土地交通委員の保持と改良。

(2) 關稅問題、苛斂なる關稅は望まぬ。併し外國より入り込む者の暴利に對しての關稅は十分に防止保護を要求す。

(3) 農作地に對する排水と灌漑、農業電化及び水力應用の完成。

- (4) 給水裁判所及び監督所。
- (5) 農産地と山林地の整理及び其の合併、並に土地の組織的分配と整理。
- (6) 秣草培養の要求。肥料經濟、高山農業と牧場農業。(狩獵區制、主に共同狩獵組合を獎勵して私有狩獵區の廢止) 國家の増産及び植物保護の要求。
- (7) 農業的組合法の改正。
- (8) 農業的組合本部の改良と獨立。
- (9) 商業と交通の自由開放(總べて中央制度の廢止)
- (10) 戰爭債務の保證。戰爭債務は財産税及び有價證券税等で、少くも五十パーセントを支拂はしむべし。
- (11) 實地農業に對する國家役員の任務、此の役員は土地耕作及び獸醫に關する高等學校を卒業せるものを採用すること。土地改良(財産税との折衝に依

る)

吾等は之等必要な條件を了解して、次の如く按配しなければならない。(1) 通貨及び通貨の價值を自由に定めて、之れが進歩を計る事、(2) 土地の自由と其の進歩、(3) 生産的大地主の一定、比較數の廢止。自然財産所有として無産出的又は僅少産出的土地に就いては私有的分配の鍵を渡し、山林に於ける財産は國家所有に屬せしめる、(4) 土地は生活に應じて産出する丈を望むべく。(5) 主として廢疾者、農事使用人及び養老所の設置。(6) 評價、分類、分配には主に農業組合を成立せしめる。

B、製造工業の地位

此等の要求は何處迄も農業的生產法に接觸せしめる事にしたい。小工業に就い

ては、第一に大工業の暴利に對する防禦法律、第二には民主々義的工業局、第三には工業組合法の改造。

C、學校法

(I) 小學校法、小學校地方に於ける教科法の立て方には農業問題を編入すること(算術、理學、郷土的知識及び歴史)教員教育所の改良も農業的需要の上に考慮を拂はなければならぬ。

(2) 専門學校、程度の低き農業的専門學校の建設及び改造、(冬期學校、旅行修學、家政學校)

(3) 農民子弟の成人する迄の特有學科は、民衆共同事務及び貯金事務及び組合法を施す事。

D、政策的施設

(1) 民主的共和國の友誼、總べての準備は官僚主義の法式、軍隊主義の法式、猶太化する中央經濟の法式等の再起せぬやうにせねばならぬ。世界戰爭の醸成者を嚴重に處罰する事を要求し、彼等を永久に葬り去りたいのである。

(2) 過重なる財政と、行政に於ける猶太人的資本主義交渉の廢絶。

(3) 地方町村に於ける自作の保持及び改良。

(4) 各所に於ける排猶太人主義の效果正しき實行。

E、社會民主々義

吾人の奮闘せんとするは、

- (1) 政府に於ける紳士間的要素の廢絶にあり(社會民主的共和)
- (2) 猶太的資本主義後見人と其の金主の廢止。
- (3) 農業の經營に於ける私有財産主義及び社會の廢止。
- (4) 彼等政府は農業的労働者を前以つて救助することをしなかつた。然るにパン崇拜者は絶えず他に向つて望みを屬して居つたのである。
- (5) 偏頗なる階級政治の廢絶。
- (6) 教化政策的諸原因の廢止

F、國民問題

- (1) 吾人は獨逸的共和を信頼する。殊に宗教的に思惑的に近親なる南獨逸人にして、彼等の住む區域が海の人口であつて、其所から大經濟を興ふる系統

に屬する者に信頼する。

- (2) 吾人は有らゆる市民的黨派の綜合理解と、共同的仕事及び共同的保護を要求する。

G、宗教問題

吾人は積極的基督的見地に立つて、あらゆる小學校及び中學校の中に、宗教教育の保存を合理的に行はんと欲す。そして總べての文化的競争を放棄せしめんと欲す。(故に吾人は國民の團結を欲する如く宗教團結を欲するものである)

H、社會問題

農業使役人の利益の爲めに左の條項を加ふ。

(1) 一般に國家的に責任ある國民保險。
 (2) 農業使役人に對する養老所の設置。
 總獨塊領農民同盟の綜合理解が、農業的諸問題に當つて共同的に發露せんことを欲する。

大正十一年十二月二十五日 印刷
 大正十二年一月一日 發行

世界戰後の基督教社會主義
 獨塊に於ける

定價金五拾錢

不許
 複製

著作者 加治時次郎

發行者 東京市京橋區木挽町六丁目六番地

中神美三郎

印刷者 東京府下南千住地方橋場一三三四番地

印刷者 村松巖

印刷所 東京府下南千住地方橋場一三三四番地

印刷所 螢明館印刷所

發行所

東京市京橋區木挽町
 六丁目十番地

生活社

電話銀座一七二一〇二
 電話七座東京二八三七一

著 郎 次 時 治 加 長 院 病 民 平

第一維新

並製二
四六版三頁
郵稅六

予は實に今日を以て國家危急の時機と信じ、絶大の憂悞を禁じ得ざるのである。而して其の憂悞の結果、遂に此の根本的社會變革の提案を爲すに至つたのである。皇室を中心とする眞正の家族的國家を現出せしめんとするに在る。そうして此の大變革の事業を、明治の第一維新に對して、大正の「第二維新」と呼ぶのである。予は固より此の小冊子を以て一般國民に訴へる。資本家にも訴へる。労働者にも訴へる。然しながら予は特に中流階級に於ける識者有志及び新思想を抱ける軍人諸氏に訴へる。資本家にも訴へる。冀くは此の小冊子をして「第二維新」の決行の爲に、多少の貢献する所あるを得せしめよ。

労働組合早わかり

四六版二頁
郵稅六

労働問題の本は澤山出て居るが、労働者に分りよく書いた本は一冊もない。殊に其價不廉で到底労働者には買ひ得ない。本書は内容が充實して居つて價亦低廉。労働者も資本家も必ず一冊を備へよ。

結婚の革命

四六版六頁
郵稅二

結婚に當つては血統を失せしむる虞も、當人同志の血液證明書を取り交はさるゝは、後天的に出来た悪血が、子孫に於て、青年男女及び其父母は必ず一讀すべし。

發行所 東京市橋區木挽町六ノ十 生活社 東京市橋區木挽町六ノ十 番一七三八二

504
142

終